

〔駿府政事録〕慶長十七年三月三日、在府之諸武士出仕、於前殿本因坊筭砂、宗桂法師、圍將棋、宗桂勝云々、廿三日、將軍家○德川秀忠於御前、本因坊筭砂、宗桂法師、有將棋、筭砂勝云々、

〔藩翰譜四久保〕同○慶長九年正月廿四日、佐渡守正信父子○本忠隣に配流の奉書を下す、兼てより板倉

内膳正重昌、父に久しく對面に及ねば、身の暇賜て上洛すと披露して、忠隣に先だつて都に上り、去年十二月十四日に江戸を立つ、父伊賀守勝重に仰を傳ふ、勝重既に其期に及びしかば、相摸守が旅館に行向ふ、忠隣折ふし象戯に對し居たりしが、勝重を座に請じ、忠隣配流の御使たるよし、さきに承り訖んぬ、流人の身となつて後かゝる戯あるべしとも覺えず、待ち玉へ、事終て仰せ承るべしとて、靜に事を終て後、さらばとて、謹て仰を承り、さなきだに此間洛中洛外、物騒しかりしに、京童ども忠隣罪蒙ると聞て、すはや事の起るぞとて、資財雜具等こゝかしこに持運び、以の外に騒動す、忠隣此よし聞て、おのが弓箭兵具、悉く束ね縛て、伊賀守が許に送り、家子郎等皆暇賜て、關東に下しければ、洛中程なく鎮まりぬ、

〔甲子夜話四〕御茶ノ水ノ堀ハ、伊達政宗助役シテ鑿タリ、コレハ猷廟○德川家光ニ政宗對棋シ奉リシ

トキ、政宗常ノ癖ニテ、棋子ヲ下サントシテハ、イツモ獨言ヲ云ケルガ、城ノ後カラ這入ルゾ、ト度々言ケル、コノ言ヨリシテ、彼ノ堀ノ助役ヲ政宗ニ命セラレシト云、

〔玉露叢二十〕寛文九年閏十月廿日ニ、御城ニ於テ、圍碁并ニ象戯ヲ仰セ付ラル、依テ見物ノ爲トシ

テ、松平讚岐守、井伊掃部頭、松平美作守、登城ナリ、黒書院ニ於テ卯ノ剋ヨリ始ル、○中宗桂角ヲ落シテ、宗與トサス、始ハ宗桂勝後ハ宗與勝也、右未ノ后剋ニ終ル、

〔大江俊光記〕寶永四年六月廿八日、南禪寺佐長老、晝カ招夕飯、夜食振廻、將棋會、長老坐首座、鈴鹿石見、村上伯元、北小路能登、相伴ニ呼、

正徳二年八月二日、以樂庵來話、日向と小將戲、